



■ 会員基盤向上に資する「ロータリー公共イメージ向上」について

さる3月27,28の両日東京で開催されたRI第1,2,3ゾーン会員基盤向上セミナーでは標記演題について各地の公共イメージコーディネーター関係者 数名がそれぞれの切り口から持論を大変熱く語られ、とても印象的で貴重な時間を過ごすことが出来た。RIはロータリー発展のため戦略計画を大々的に取り入れるよう推奨し、その束ねた3本の矢の内の一つである公共イメージ向上も特別に力を入れている。戦略計画の最終ゴールは何よりもクラブの発展、そして会員増強であり、その為のイメージ向上は必須であり、それを活かさねばならないと説いている。112年前シカゴの街で4人の青年実業家が集まりロータリークラブを創立し、それが現在会員数120万人を超える世界的巨大組織に成長した。その要因はロータリーが常に内外への広報宣伝活動を効果的に継続して来たこと、そしてどの時代にもロータリー会員自ら日頃の理念に沿った職業奉仕を行い、世界中の各クラブが長年実施して来た質の高い奉仕活動を地域が世界が認知して来たからではないか。ここで先日のセミナーでの発表を参考にしながら今後の広報展開を如何になすべきかを考えてみたい。

・地区レベルで、

地区はクラブにロータリーのイメージ向上に繋がる情報を提供すべきである。例えばクラブ奉仕活動への取材活動を地区が代わってマスコミに申し入れる、クラブセントラルから情報収集を奨励する、地区へのBox投稿依頼を強く勧めている。特にIT、中でも各種SNSを駆使した映像による積極的発表、投稿は若い世代に強くアピールするだろう。一例として、第2670地区前田直俊ガバナー監修によるアニメ「おしえてロータリー」は日本語、英語版があり、FB、YouTube、DVD等を通して誰でも鑑賞可能。これらは広く地域社会でロータリーの啓発活動や、ロータリークラブ新入会員の研修にも役立つすぐれた教材である。(第1図参照)

・クラブレベルで、

会員が汗を流し、地域のために良い事をした事実をマスコミが取材し、のちにマスメディアに載ることはとても立派な業績であり、ロータリーを社会に理解して貰える千載一遇の良い機会です。ここに第2690地区玉島RCと米子4RCの奉仕活動が新聞記事になった例を紹介する。なお、この記事は現在RIのBoxに収めてあります。各クラブでとても簡単に操作できるBoxを利用し、活用して下さい。(第2図・第3図参照)

・ロータリアン個人レベルで、

忘れてならないのは、会員各自が果たして来た長年の「くちコミ作戦と真摯な奉仕活動」こそロータリー発展の最大貢献者であり、今後戦略計画実施への大きなヒントになると確信する。色々な意味で直接対面での意思疎通は何事にも変えがたいお金のかからない広報宣伝戦略であろう。(第3ゾーンARPIC 伊藤文利 倉吉RC)

■ クラブ数 会員数

Zone 1	829	28,680
Zone 2	652	28,158
Zone 3	790	32,745
合計	2271	89,583

2017年4月10日現在のClub Centralのデータです。第2ゾーンの数値にはGUAM, MICRONESIA, NORTH ERN MARIANS, PALAUが含まれます。

■ BOX登録件数

187件(1.2.3ゾーン合計)  
2017年4月10日現在



第1図

Kurashiki・Solia  
**倉敷・総社圏版**

**災害発生 どう対応** 玉島など中学生30人  
炊き出し訓練

倉敷市玉島地区の中学生が学ぶ「災害ボランティアリーダー研修会」が2日、同市玉島八島の玉島消防署で開かれた。玉島東、西、北、船防中の4中学校から30人が参加。災害に備え、炊き出しや搬送訓練などを行った。

炊き出し訓練では豚汁に挑戦した。木を割って大鍋に湯を沸かす班、タマネギや肉など食材の下ごしらえ班に分かれて作業。出来上がった豚汁を味わった。消防署員からAED(自動体外式除細動器)の使い方や人工呼吸といった救命講習を受け、毛布を使って担架を作り搬送する訓練もした。玉島北中3年植田麗人さん(15)は「研修したことは、いざというときに役に立っていく。ボランティアもいろいろやってみたい」と話していた。

研修会は、玉島ロータリークラブ(今

災害に備え、炊き出しの訓練をする生徒ら

第2図

米子の4ロータリークラブ  
金沢翔子さんの書  
全日空ホテルに寄贈

ダウン症の書家・金沢翔子さん(31)が東京都在住。米子市内のロータリークラブ(RC)のために筆を執った書の披露が18日、同市米子町の米子全日空ホテルであった。書の購入代金は、国際組織のロータリー財団がポリオ撲滅のために使う。

昨秋、境港市などで開かれたRCの地区大会で金沢さんが揮毫した。縦1・9横1・1の和紙に大筆で書いた「夢」は、チャリティオークションで米子市内のRC4団体で共同で購入した。「翔」と書かれた作品は、米子RC所属の広江智恵和会理事長が購入し、運営する施設で展示する。2作品の代金計150万円はワクチンの費用などに充てられるという。

「夢」は、RCの例会などで利用する同ホテルに寄贈した。作品が掲げられた1階ロビーで開かれた式典にはRC関係者約20人が出席。勢いを感じさせる筆遣いの書に拍手がわいた。

地区大会で代表者に当たるガバナーを務めた庄司尚史第2次商會代表社員社長は「書を見るたびに、ポリオ撲滅への意識を高めてほしい」と話した。(陰山篤志)

第3図

この書は第2690地区米子市内4RCが市民に末永く鑑賞してもらうために共同購入したものである。

